

松伏と私

松伏町につながりがあり、様々な世界で活躍されている方に、松伏町の思い出を伺いました。

ビーチバレー 石島 雄介選手

©TOYOTA BEACH VOLLEYBALL



—松伏町にはどのようなイメージをお持ちですか。
 アクセスや教育、子育てにおいて、生活がしやすい町だと思います。

—松伏町で子どもの頃の思い出の場所・出来事は何ですか。
 B & G 海洋センターで、プールや剣道をしていたことです。

—石島選手にとって松伏町はどのような場所ですか。
 実家もあるので故郷です。

—いつでも帰ってこられる場所なので、帰って来ると落ち着きます。

—これからの松伏町はどのようなまちになってほしいですか。
 町の魅力を町内・町外に伝えていけるまちづくりをして、
 活気あるまちになってほしいです。

—松伏町民にメッセージをお願いします。
 松伏町民の皆さま、ビーチバレー選手の石島雄介と申します。
 私は2020年東京五輪へ向けて突き進んでいるところです。
 スポーツを通して町民の皆さまに夢や感動を与えられるように、
 精進していきたいと思っております。

2020年東京五輪ビーチバレー会場では町民の皆さまにお会いできる
 ことを楽しみにしています。

よろしくお願ひします。

プロフィール



©TOYOTA BEACH VOLLEYBALL

1984年1月9日生。松伏町出身。
 松伏第二中学校1年よりバレーボールを始め、卒業後は深谷高校へ入学し、
 第32回春の高校バレーで優勝。
 筑波大学では主将を務め、2005年の大
 学四冠に貢献。
 2005年から堺ブレイザーズでプレイ
 し、優勝に貢献し新人賞を受賞。
 全日本には2006年から選出され、
 同年の世界選手権に出場。
 2007年のワールドカップでは、新人賞
 を受賞。
 2008年北京オリンピック出場。全日本
 バレーボールチームのエースアタッカーと
 して、本町初のオリンピック出場選手とし
 て大活躍し、2009年1月、町民栄誉賞
 を受賞。
 2010年Vプレミアリーグベスト6を
 受賞。
 2013年全日本バレーボール選手権大会
 ベスト6を受賞。
 2017年からトヨタ自動車ビーチバレー
 ボール部所属。
 ゴツの愛称で知られ、身長197cmの
 日本人離れした恵まれた体格とパワーで強
 烈なサーブやスパイクを打つ。情熱的で闘
 志を剥き出しにしたプレーに定評がある。

INTERVIEW 01 YUSUKE ISHIJIMA



「松伏町にはどのようなイメージをお持ちですか。」
 大人になってから気づくことが多いのですが、東京からとても近く、閑静で生活しやすいまちであるため、訪れてみると絶対に好きになるまちだと思います。子どもの頃は、自然豊かな環境の下でよく遊び、また、近所同士の仲が良かったので、楽しく過ごしていました。そうしたことから、人と人のつながりがあるまちだと思います。

「松伏町で子どもの頃の思い出の場所・出来事はありますか。」
 子どもの頃は、祖父と一緒にハーモニイに行き、将棋や囲碁をやっていました。また、中学校の体育祭や文化祭の打ち上げでも利用し、とても思い出深い場所です。記念公園で当時「ふれあいフェスティバル」と呼ばれていた町民まつりも楽しみにしていました。

卒業した松伏小学校や松伏第二中学校での学校生活も、とても良い思い出です。また、役場付近にある駄菓子屋にもよく買いに行きました。

プロゴルファー 石川 遼 選手

「石川選手にとって松伏町はどのような場所ですか。生まれ育った故郷という感じですか。家族と一緒に過ごせるので、松伏町以上に落ち着く場所はありません。」
 ツアーで家を離れることが多いですが、帰ってきたときは、リラックスできて、とても安心感があります。

「これからの松伏町はどのようなまちになってほしいですか。」
 子どもが多いまちになってほしい。小学校へ通学していた頃、ボランティア110番の皆さんが見守りをしてくださっていたことを今でも覚えています。まち全体で子ども達を守ろう、育てようとする素晴らしい取組みだと思います。のびのびと、安心して子育てができるまちになってほしいです。

「松伏町民にメッセージをお願いします。」
 松伏町の皆さんやまつぶし応援団の方々には、とても感謝しています。大会で松伏町から応援に来られた方に声をかけていただくと、とても励みになります。松伏だけでなく、近隣も含めて、地元愛を背負って、今後も頑張っていきたいと思います。応援よろしくお願いします。



©(一社)日本ゴルフツアー機構

プロフィール
 1991年9月17日生。松伏町在住。6歳のとき、父に連れられて練習場に行ったことがきっかけでゴルフを始め、ジュニア時代から輝かしい成績をおさめる。高校に進学して間もない2007年5月、国内男子ツアー初出場となった「マンシングウエアオープンKSBカップ」で、史上最年少の15歳8か月で優勝を飾り、一躍ニューヒーローとして脚光を浴びる。2008年1月にプロ転向を表明。11月に「マイナビABCチャンピオンシップ」でプロとして初優勝を果たすなど、賞金ランキングで5位に入り、史上最年少での1億円プレーヤーとなる。2009年3月、「まつぶし夢大使」を委嘱。2009年、「マスターズ」などの海外トーナメントに出場。年間で4勝を挙げ、史上最年少での賞金王に輝く。2010年5月には「中日クラウンズ」で優勝、最終日にマークしたスコア「58」が、「世界最少ストローク」としてギネスブックに正式に認定される。2012年、「三井住友VISA太平洋マスターズ」で、2010年の同大会以来、2年ぶりのツアー優勝を飾り、史上最年少で通算10勝目を挙げた。2018年1月に日本ゴルフツアー選手会、選手会長に史上最年少(26歳110日)で就任。同年3月には、日本ゴルフツアー機構(JGTO)の副会長に史上最年少で就任。

©(一社)日本ゴルフツアー機構

INTERVIEW 02 RYO ISHIKAWA



シクロクロス
織田 聖
選手

©kasukabevisionfilms

INTERVIEW 03 HIJIRI ODA

「松伏町にはどのようなイメージをお持ちですか。自然豊かで、菜の花や桜、ひまわり、コスモスと四季折々の草花が楽しめる、良い町だと思います。」

「松伏町で子どもの頃の思い出の場所・出来事は何ですか。毎日のように歩いた小学校の通学路です。下校時はどれだけ速く走って帰れるかタイムアタックのようなこともやっていました。そのおかげで体力もつきました。」

「織田選手にとって松伏町はどのような場所ですか。一番落ち着ける場所です。緑豊かで川もあり、ほとんど平坦なのでサイクリングするにはとても良い環境です。リカバリーの日は松伏町でサイクリングしてリフレッシュしています。」

「これからの松伏町はどのようなまちになってほしいですか。今まで以上に治安が良く暮らしやすいまちになってほしいです。」

「松伏町民にメッセージをお願いします。サイクリングのお誘いお待ちしております。」

シクロクロスとは距離ではなく時間制で行われる自転車競技で、1周2.5kmから3.5km程度の舗装・未舗装が入り混じるコースを周回し、ゴール着順を競うスポーツ。

プロフィール



1998年11月23日生。松伏町在住。4歳のとき、親に連れられて川口市のゴリラ公園内特設BMXコースに行ったのがきっかけでBMXレースを始める。13歳のとき、BMXで結果が出ず悩んでいたときに、吉見町の吉見運動公園で開催されていたシクロクロスレースを観戦し、シクロクロスを始める。2015年シクロクロス全日本選手権飯山大会ジュニアカテゴリー（19歳未満）で優勝を飾り、世界選手権ベルギー大会出場。同年、弱虫ペダルサイクリングチームに所属し、ロードレースを始める。2016年シクロクロス全日本選手権宇都宮大会U23 2位。世界選手権ルクセンブルク大会U23 出場。2017年シクロクロス全日本選手権野辺山大会U23で優勝を飾り、世界選手権オランダ大会U23 出場。同年、シクロクロス中国大会国際自転車競技連合公認大会で8位に入り、日本人最高位を獲得。2018年全日本実業団プロクラスU23年間総合チャンピオンに輝く。